

PHC凝固線溶セミナー

九州 2024

オンデマンド配信

2025年2月25日(火)～3月11日(火)

2024年10月26日に開催いたしましたPHC凝固線溶セミナー九州2024で
ご講演が叶わなかった特別講演をオンデマンド配信いたします。

お申し込みは下記URLまたは二次元コードより登録をお願いいたします

<https://x.gd/LWlsb>

お申込み後、リマインドメールが届かない場合は、
申込画面内にあるお問い合わせ先までご連絡ください。



座長

北九州市立八幡病院

院長 岡本 好司 先生



演者

東京都済生会中央病院

臨床検査医学科 窓岩 清治 先生

みえる血栓、みえない血栓と血液検査

— 静脈血栓塞栓症とDICをどのように捉えるか —

がん関連血栓症（CAT）のうち静脈血栓塞栓症（VTE）は、患者自身の要因とともにがん自体やがん治療などを危険因子として、血管内皮傷害を起点に血小板・血液凝固系が活性化されることで深部静脈や肺動脈に「みえる血栓」が形成される病態です。一方で播種性血管内凝固（DIC）は、がんを含む基礎疾患により同じく血小板・血液凝固系が活性化されますが、全身の微小血管に「みえない血栓」が形成される病態です。さらには「みえる血栓」と「みえない血栓」が同時に存在することもあります。血液検査に関わる臨床検査技師はチーム医療を担う一員として、検査の限界を理解しながらこれらの病態を把握し、正確な検査情報の提供と解釈を介して診療に寄与することが求められます。

本講演では、VTEとDICを対比させながら血栓症診療に必要な凝固線溶検査とともに、最近のガイドラインについても概説します。